

じょう せつ き かく てん
常 設 企 画 展

しん さく ち

晋作ゆかりの地

下関と北九州

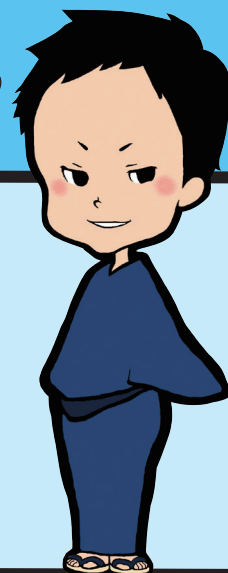
しもの せき

きた きゅう しゅう



6 / 24 火

→ 9 / 21 日



【開館時間】9:30~17:00 (最終入館16:30)

【休館日】毎週月曜日 (7月21日・8月11日・9月15日は開館) 祝日の翌平日

【観覧料】一般300円 (240円) 大学生等200円 (160円)

※ () 内は20名以上の団体料金

※ 下関市内及び北九州市内に居住する65歳以上の方は観覧料150円

※ 18歳以下の方、高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在学の生徒、障害者手帳等をお持ちの方は無料

※ 年齢、居住地等で割引を受ける場合は、公的証明書が必要

- ① 高杉晋作馬上姿像
(東行庵蔵・当館寄託)
- ② 直垂 (当館蔵)
- ③ 脚付ガラス杯
(東行庵蔵・当館寄託)
- ④ 古銭 (東行庵蔵・当館寄託)

下関市立東行記念館
山口県下関市大字吉田1184番地
電話番号 083-284-0212

しん さく き ふく 晋作が着た服



直垂（当館蔵）

むかし しものせき きたきゅうしゅう 昔の下関と北九州



門司付近古地図 部分（個人蔵・当館寄託）

しものせき し りつ とう ぎょう き ねん かん じょうせつ き かくてん
下関市立東行記念館常設企画展
しん さく ち

晋作ゆかりの地

しものせき きたきゅうしゅう
下関と北九州

げき どう ばく まつ か め たか すぎ しん さく かい きょう ぶ たい かつ やく
激動の幕末を駆け抜けた高杉晋作。海峡を舞台に活躍
した晋作ゆかりの旧跡は、下関・北九州の各地に点在し
ています。

しものせき き へい たい けつ せい ち し たけ ぎき うら しやうにん
下関には、奇兵隊結成の地として知られる竹崎浦の商人
白石正一郎邸跡をはじめ、晋作が同志とともに決起した
といわれる長府の功山寺などがあります。

ちやうしゅうはんぐん ばく ふ しや はん ぐん せい たたか ばくちやうせん そう
また、長州藩軍と幕府や諸藩の軍勢が戦った幕長戦争
において、晋作は海軍惣督（のちに馬関口海陸軍参謀）
として小倉口の長州藩軍を指揮しました。北九州には、
戦跡である田野浦や門司、大里、赤坂などが所在します。

しものせき ばくちやうせん そう ばくちやうせん そう ばくちやうせん そう
幕長戦争のさなか、病によって戦場から離れた晋作は、
下関の各地で療養ののち、新地の林算九郎邸の離れでそ
の生涯を閉じ、晋作の遺言により奇兵隊の陣屋がある吉
田の地に葬られました。墓所近くの東行庵では今なお晋
作の菩提が弔われています。

ほんてん じ かい きょう しん さく じ せき
本展示では、海峡における晋作の事績をたどりながら、
下関・北九州における晋作ゆかりの史跡をわかりやすく
紹介します。



脚付ガラス杯（東行庵蔵・当館寄託）

しん さく しん さく しん さく
晋作が使用
したと言わ
れるグラス

しりょう おすすめの資料！

がいこく なかなお ぶ たい のぞ
外国と仲直りをする舞台に臨んだ
晋作が着ていた直垂です。これは
お殿様（毛利敬親）からもらった
もので、萩毛利家の桐の家紋
（家を示すマーク）があし
らわれています。

がくげいしん こう げ ひさとし
学芸員 高下久利



交通のご案内

公共交通機関でお越しの方

JR小月駅から美祿駅・湯谷・吉田
方面行のバスに乗車（約15分）
JR下関駅から美祿駅・湯谷・吉田
方面行のバスに乗車（約50分）
バス停

「東行庵入口」で下車（徒歩10分）
「東行庵前」で下車（徒歩5分）

お車でのお越しの方

小月ICより5～10分
美祿西ICより10～15分

